

## 第2学年 国語科学習指導案

場 所 2年3組教室  
児 童 2年3組 33名  
指導者 佐々木 史

### 1 単元名 親友ってなに？

中心学習材 『お手紙』 作 アーノルド＝ローベル（光村図書2年下）

補助学習材 アーノルド＝ローベル作品『ふたりはいっしょ』他3冊

### 2 単元のねらい

本単元は、学習指導要領の「C読むこと」第1学年及び第2学年指導事項（1）目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受け、「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」「楽しんだり、知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」を重点として設定している。

本単元では、シリーズ読書を楽しみながら、登場人物の行動を自分のこととしてとらえ、交流を通して読みの世界を広げる姿を目指していきたい。

### 3 単元の指導構想

#### (1) 児童について

児童は、「読むこと」の学習として、『ふきのとう』では、想像したことを基に、個々に好きな場面とその理由を明らかにしながら選択し、音読した。『スイミー』では、登場人物の行動を中心に想像を広げ、「心に残ったところ」について理由や感想をまとめて交流するとともに、同一作者の作品『フレデリック』と比較し、2年生なりに考えた作品の共通点について交流した。これらの学習から、登場人物について自分の知識や経験と結び付けながら自分の読みをもつことができるようになってきている。また、日常においては、図書室に足を運び、同一作者の本や同じ登場人物の本を借りて友達に紹介する児童や、紹介された本を読もうとする児童が多く、進んで読書に親しむ姿が見られる。

そこで、本単元では、シリーズ読書を楽しみながら登場人物に対する自分の読みをもち、交流を通して互いに思いや考えを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりして、読みの世界を広げていきたい。

#### (2) 学習材について

学習材『お手紙』は、「がまくん」「かえるくん」の、ほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、四日遅れの、しかも内容をわかっている「お手紙」を、仲よく待つ二人の心の交流は、読み手までも幸せな気持ちになり、共感をもって読むことのできる作品である。また、「がまくん」「かえるくん」が登場するシリーズは全部で4冊ある。これらの作品を通して、登場人物に親しみをもって読んだり、『お手紙』だけでは分からない出来事について、思いや考えを広げたり深めたりすることができる。この時期の児童が、「がまくん」と「かえるくん」について自分の読みをもつことは、今後、他者を理解し、共感しながら成長していくうえで意義深いことと考える。

#### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、「登場人物に対する自分の読みを基に、シリーズ作品を観点に沿って分類し感想をもつ」言語活動を行う。そのために、自己と「事象」「友達」「未来」とのつながりを大切にしながら、それぞれに関する手立てを位置付けて指導していく。

自己と「事象」とのつながりで大切にすることは、「がまくんとかえるくんに対して、自分の読

みをもつこと」である。そのための手立てとして、中心学習材『お手紙』で「友達」と「親友」の違いに着目し、互いに「親友」と思っている二人には、他にどのような出来事があったのか、シリーズ読書を通して読むという課題意識を明確にする。また、「登場人物に対する自分の読み」とは、「登場人物の行動の変化やその根拠となる出来事について、自分の思いや考えをもつこと」である。登場人物と自分の経験とを比較して読むことや、行動や会話、場面の様子を想像して読むことが大切であることに気付くことで、シリーズ読書をする事への意欲を高めたい。なお、本單元において、「登場人物と自分の経験とを比較しながら読む」とは、「登場人物に対して自分が共感できるところについて、すでにもっている知識や経験、特に読書経験と結び付けて読むこと」である。比較することで、文章の内容と自分の経験や課題意識と結び付けて読む力を更に高めていけるものと考ええる。

自己と「友達」とのつながりで大切にすることは、「自分の読みを交流し、読みの世界を広げること」である。そのための手立てとして、がまくんとかえるくんの間で起こった出来事について、それぞれの作品が「とても仲が良い」「とても仲が悪い」の間のどのあたりに位置するのか少人数のグループで分類する。そして、分類した結果を基に、二人の関係について「いいなと思ったところ」を交流することができるようにする。これらの活動を通して、二人の間に起こった出来事についての自分の読みを相手に伝えたり、相手の読みに共感したりして、それぞれのよさを実感することができるようにする。

自己と「未来」とのつながりで大切にすることは、「読みの世界の広がりを実感すること」である。そのための手立てとして、課題について、学習前と比較して、本時の学習でできるようになったことや友達から学んだことを振り返る。振り返りは、記述して積み重ねることで、自己の変容や成長を自覚できるようにする。また、教師による価値付けを行うことで、達成感を得ることができるようになる。単元の終末には、学習全体を振り返り、シリーズ読書のよさについても実感しながら、今後の読書生活への意欲を更に高めることができるようにする。

以上の手立てにより、シリーズ読書を楽しみながら、登場人物についての自分の読みをもち、交流を通して読みの世界を広げる姿を目指していきたい。

#### 4 単元の指導計画

##### (1) 目標

- ・ 登場人物の行動を中心に、経験と結び付けながら興味をもって読もうとしている。  
【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 登場人物の行動を中心に、経験と結び付けながら自分の読みをもつことができる。  
【読むこと オ】
- ・ 登場人物について、自分の読みを交流するために、本や文章を選んで読んでいる。  
【読むこと カ】
- ・ 自分の読みを表現したり伝えたりするために、適切な言葉を使うことができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ（ア）】

##### (2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
登場人物と自分の経験を結び付けながら、興味をもって読もうとしている。	登場人物の行動を中心に、自分の経験と結び付けながら、自分の読みをもっている。 自分の読みを伝えるために、シリーズ作品の中から「いいなと思ったところ」を選んでいく。	自分の読みを表現したり伝えたりするために、自分の経験と結び付けながら、適切な言葉を使っている。

(3) 指導計画 (全 9時間 本時 8 / 9 )

次	時間	◎ねらい ○学習活動・学習内容	評価規準 (評価方法)
一	1・2	◎ 学習の目的を理解し、見通しをもつことができる。 ○ 『スイミー』の1対複数の関係にを想起して、1対1の関係である作品『お手紙』に関心をもって読み、シリーズ読書を通じて登場人物に対する自分の読みを交流するという、学習の見通しについて話合う。 ※並行読書開始	シリーズ読書を通して、登場人物について自分の読みをもち交流するよさについて考え、学習の見通しをもっている。 【関】(発言・ノート)
二	1	◎ 『お手紙』の出来事について自分の読みをもち、「いいなと思ったところ」を交流することができる。 ○ 『お手紙』の出来事について、「とても仲がいい」「とても仲が悪い」の間のどのあたりに位置するのか分類し、「いいなと思ったところ」について自分の読みを基に交流する。	がまくんとかえるくんの出来事について、「いいなと思ったところ」について自分の読みを書きまとめ、交流している。 【読】(発言・ノート)
	2・3	◎ がまくん、かえるくんシリーズを読み、二人に起こった出来事について、自分の読みをもちことができる。 ○ シリーズ読書を行い、ブックリストに自分の読みを記録する。	シリーズ読書を行い、二人に起こった出来事について、自分の読みを記録している。 【読】(手紙・ブックリスト)
	4・5	◎ 『すいえい』を読み、出来事について自分の読みを基に、「いいなと思ったところ」を交流することができる。 ○ 『すいえい』の出来事について、「とても仲がいい」「とても仲が悪い」の間のどのあたりに位置するのか分類し、「いいなと思ったところ」について自分の読みを基に交流する。	物語の大体を読み、がまくんとかえるくんの出来事について、「いいなと思ったところ」について自分の読みを書きまとめ、交流している。 【読】(発言・ノート)
三	1 (本時)	◎ シリーズ作品について、自分の読みを基に、「いいなと思ったところ」を交流することができる。 ○ シリーズ作品を、「とても仲がいい」「とても仲が悪い」の間のどのあたりに位置するのか分類し、「いいなと思ったところ」について自分の読みを基に交流する。	分類した作品について、「いいなと思ったところ」について自分の読みを書きまとめ、交流している。 【読】(発言・ノート)
	2	◎ 単元の学習の振り返りを行うことができる。 ○ シリーズ読書をしてよかったことや、単元を通して学んだことについて振り返る。	シリーズ読書をするよさや、単元を通して学んだことについて振り返っている。 【関】(ノート・発言)

## 5 本時の指導

### (1) 目標

シリーズ作品について、自分の読みを基に分類し、「いいなと思ったところ」を交流することができる。 【読むこと オ】

### (2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
「とても仲が良い」「とても仲が悪い」の間のどのあたりに位置するのか分類し、「いいなと思ったところ」を見付けている。【読むこと オ】	ブックリストの記録を振り返り、「いいなと思ったところ」を考えることができるようにする。

### (3) 展開

展開	学習活動	学習内容	指導上の留意点・支援（◇評価）
導入 8分	1 本時の学習課題を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     がまくんとかえるくんにおこったできごとをまとめて、「いいなと思ったところ」をこうりゅうしよう。                 </div>		
展開 32分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     〈「事象」とのつながり〉                      学習計画を基に、前時までの学習を確かめ、本時の学習課題につなげる。                      ↓                      前時までの学習を想起し、これまでの自分の読みを交流するという見通しをもつことができるようにする。                 </div>		
	2 課題解決の見通しをもつ。		
	3 学習課題を解決する。 (1) 分類の手順を確かめる。  (2) グループごとに、シリーズ作品を分類する。	<分類の手順> 1 分類の視点の確認 2 視点に沿った区別 3 まとめた表の確認  <分類の観点> ・二人に起こった出来事とその結末 ・とても仲がいい ・とても仲が悪い	<ul style="list-style-type: none"> <li>『お手紙』『そりすべり』の分類の仕方を想起し、全員が手順を理解した上で活動できるようにする。</li> <li>ブックリストの記録から、二人の関係について異なる見方をしている同士でグループをつくり交流し合うことで、作品への関心を高めることができるようにする。</li> <li>友達の考えた分類が、その理由から伝わるか、考えることができるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     〈「友達」とのつながり〉                      小グループで、がまくんとかえるくんが起こった出来事を分類し、それを基に自分の読みを交流するという手順を確かめた上で、グループの交流を促す。                      ↓                      分類の観点に沿って、シリーズ作品を分類することができるようにする。                 </div>			
4 「いいなと思ったところ」を交流する。	<交流の手順> 1 「いいなとおもったところ」の記述 2 出し合い 3 関係付け	◇ 「いいなと思ったところ」について、書きまとめている。（ノート）	

終 末  5 分	5 学習を振り返る。		
	<p>           &lt;「未来」とのつながり&gt;            学習前の自分と比較して身に付いた力を記述する，という振り返りの観点を示す。            ↓            この学習を通して，身に付いた力が実感できるように，交流する前の自分と比較して振り返ることができるようにする。         </p>		
	6 次時の学習を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらいに関わる評価をしている児童を意図的に指名し，学習の価値付けを図る。</li> <li>・ 次時は，単元の学習を振り返ることについて確認し，意欲や見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>